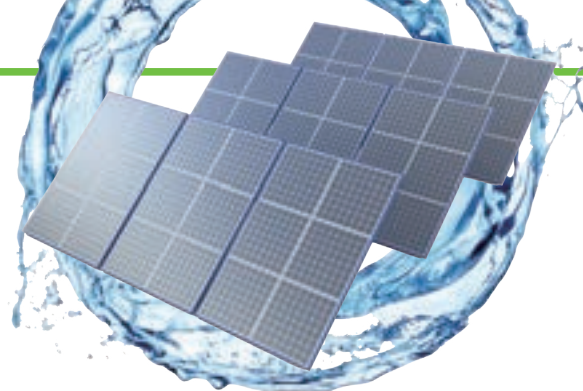


脱炭素支援の取組み

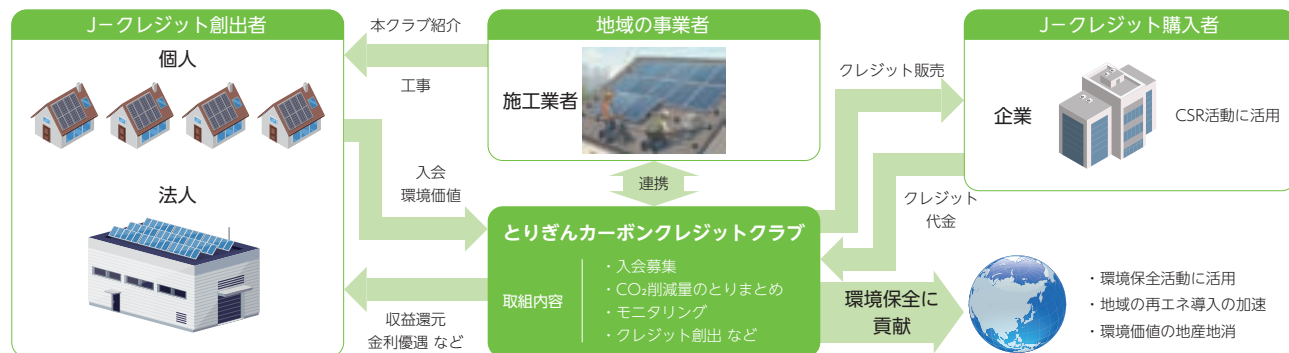
当行は、持続可能な地域社会の実現に向けて、地域の脱炭素支援を推し進めております。今回は太陽光発電と小水力発電に関連する取組みについて紹介いたします。



● とりぎんカーボンクレジットクラブの取組開始

2026年2月より、自家消費型太陽光発電設備を設置されている個人および事業者の皆さまを対象に、「とりぎんカーボンクレジットクラブ」の取扱いを開始しました。本クラブは、ご家庭や事業所に設置された太陽光発電設備によって創出される環境価値^{*}を取りまとめ、国のJ-クレジット制度によりクレジットの創出・販売を行います。

^{*} 環境価値とは … 太陽光など再生可能エネルギーを利用することで、化石燃料による発電では排出されるCO₂について、その排出が抑制されるという環境面での付加価値のこと。



- J-クレジット制度のプログラム型を採用することで、当行が、太陽光発電導入という環境貢献活動を取りまとめ、費用面で収益化できない小規模な環境貢献活動に対して、クレジット創出の裾野を広げます。
- 本クラブで創出・売却されるJ-クレジットの収益は、教育施設に対する太陽光発電導入経費の寄付や自治体に対するJ-クレジット創出経費の寄付など環境保全活動に活用することを予定しております。

● 鳥取県と中小企業における脱炭素経営の促進に関する連携協定を締結

2026年3月、脱炭素社会の実現に向けて、鳥取県と「中小企業における脱炭素経営の促進に関する連携協定」を締結いたしました。本協定により、鳥取県内中小企業の脱炭素経営の実効性向上と地域全体への普及促進を図ります。

また、その取組みの一環として、当行と鳥取県、株式会社びんごやが連携して、シャツの製造から販売までのCO₂排出量を算定し、J-クレジットでオフセットした排出量"実質ゼロ"ポロシャツを製作いたしました。鳥取県内で働く当行行員は週1回以上このポロシャツを着用し、啓発活動を行っています。



● 佐治川小水力発電事業への参画

当行は2024年5月に株式会社森とみずのちからと小水力発電事業に関する協定を結び、同事業を推進しています。そうした中、このたび同社と共同して鳥取市佐治町佐治川における小水力発電事業の取組みを進める運びとなりました。

本事業は、環境省の「脱炭素先行地域」^{*1}の選定を受けた鳥取市が公募するPFI事業^{*2}に対し、同社との共同応募が選定されたもので、小水力発電事業として当行初の取組みとなります。

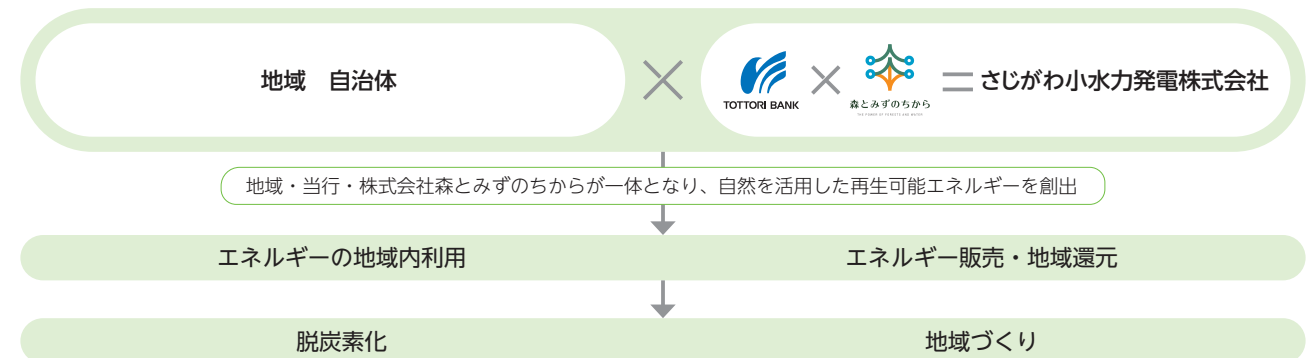
^{*1} 脱炭素先行地域とは … 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2030年までに民生部門（家庭・業務）の電力消費に伴うCO₂排出実質ゼロを前倒しで達成し、地域課題の解決と魅力を向上させるモデル地域で環境省より選定される。

^{*2} PFI事業とは … 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法のこと。

- 事業実施にあたり、当行と株式会社森とみずのちからが共同で特別目的会社を設立

特別目的会社	さじがわ小水力発電株式会社
代表者	代表取締役 貝本 隆三
所在地	鳥取市永楽温泉町171番地（当行本店内）
事業内容	小水力発電事業 水力発電等の自然エネルギーに関するコンサルティング等
資本金	10百万円
株主構成	株式会社森とみずのちから 95%、当行 5%
設立日	2026年3月18日

当行は、小水力発電事業への取組みを通じて、地域の自然資本を活かした再生可能エネルギーの創出、循環による地域還元及び脱炭素社会の実現に貢献してまいります。



2026年4月23日、鳥取市の深沢市長に事業概要を報告しました。

- 小水力発電所概要は下記の通り

建設予定地	鳥取市佐治町大井地内
発電事業者	さじがわ小水力発電株式会社
完成予定時期	2029年3月（4月より売電予定）
最大出力	200kW程度
最大使用水量	1.7m ³ /s
有効落差	14.65m